

一般財団法人日本財団母乳バンク 2022 年度事業計画書

2022 年 3 月 26 日

I. 事業の目的

当法人は、母乳を必要とする早産や極低出生体重の赤ちゃんに対して母乳を与えることができない状況であっても、NICU（新生児集中治療室）等の医療機関の要請に基づきドナーミルク（ドナーから提供され適切な処理を経て安全性を確認した母乳）を安定して提供する事業を行うことで、小さな命を守り、その健やかな成長に寄与すること、その将来の可能性を大きく広げていくことを目的として活動を行っている。

II. 事業の柱

必要な状況にある赤ちゃん人生最初によりよい栄養としてドナーミルクを提供すること、ドナーミルクを通して無限に広がった未来がよりよい世界を創っていくために、「ドナーミルクで小さないのちと元気のたすきをつなぐ」のミッションを掲げ、2022 年度は以下 3 つの事業の柱に基づき、母乳バンク活動を推進する。

- ①ドナーミルクの安定供給（低温殺菌処理・冷凍・全国の NICU への発送）
- ②ドナーミルクの安全性と効果の調査研究
- ③母乳バンクに関する周知啓発

III. 2022 年度事業内容

2022 年度において、当法人が実施する事業は以下の通り。

①ドナーミルクの安定供給

年間約 7,000 人産まれる早産児・極低出生体重児のうち理想的な生後時間で栄養をはじめめるのに母親以外の母乳を必要としている赤ちゃんは約 5,000 人いるとされている。当法人では国内最大規模の母乳バンク室のクリーンルームでドナーミルクの低温殺菌処理および冷凍保管を行い、2022 年度より 5 年以内で国内ニーズの 5,000 人分のドナーミルクを安定的に提供できる体制を構築する。

- (1) 時期：2022 年 4 月～2023 年 3 月
- (2) 場所：東京中央区
- (3) 内容：ドナー登録、ドナーミルクの細菌検査・低温殺菌処理、冷凍保管、および全国の NICU への発送、バンク室内必要機材・システムの購入・設置。
- (4) 目標：
 - i. 215 人のドナー登録
 - ii. 215 人分のドナーミルクを低温殺菌処理および冷凍保管
 - iii. 全国 100 施設、1000 人分の超早産児・極低出生体重児にドナーミルクを発送、提供

②ドナーミルクの安全性と効果の調査研究

早産児・極低出生体重児の成長を促すドナーミルクの栄養価や生理活性物質量を測定分析することで、オーダーメイドのドナーミルクを提供できる研究体制を構築する。

- (1) 時期：2022年4月～2023年3月
- (2) 場所：東京中央区
- (3) 内容：早産児のバックグラウンドに適したドナーミルク提供のための成分分析・生理活性物質測定の実施。研究室内必要機材・システムの購入・設置。
- (4) 目標：
 - i. 500人分のドナーミルクの熱量、たんぱく質量、脂肪量、炭水化物量等の成分分析を実施し、提供時に添付（ドナーミルクを利用している早産児の栄養摂取量が明らかとなる）
 - ii. 500人分のドナーミルクの分泌型IgA抗体、ラクトフェリン、上皮成長因子（EGF）、ヒトミルクオリゴ糖（HMO）等の生理活性物質の測定を実施し、提供時に添付（心疾患、消化器疾患を合併した超早産児では特にこれらの生理活性物質が未熟な腸管粘膜を保護・成熟させるために重要となる。）

③母乳バンクに関する周知啓発

より多くの赤ちゃんの命を守るために、母乳バンクの活動をウェブサイトやSNS、イベントなどで発信、カンファレンスや学会の共催で研究成果も積極的に発表する。

1. 公式ウェブサイト運営、SNS発信

- (1) 時期：2022年4月～2023年3月
- (2) 場所：東京中央区
- (3) 内容：公式ウェブサイトおよびSNS（Instagram）での定期的な情報発信
- (4) 目標：これまで「母乳バンク」を知らなかった層への周知啓発を促進させる

2. 第5回母乳バンクカンファレンスの開催

- (1) 時期：2022年6月
- (2) 場所：東京港区
- (3) 内容：医療従事者100人に対して母乳バンクに関する専門的な会合の開催
- (4) 目標：医療従事者への「母乳バンク」の医療的意義に対する啓発により、ドナーミルク使用施設や問診業務を委託できる病院を増加させる。

3. 一般向け説明会、事業報告会等の開催

- (1) 時期：2022年8月～2023年3月
- (2) 場所：東京中央区
- (3) 内容：母乳バンクに関する一般向けの説明会および事業報告会の開催
- (4) 目標：新規ドナー（ドナーミルク提供者数）の獲得につなげる

以上